

～海洋状況表示システム「海しる」の紹介～

第二管区海上保安本部 大友 裕之

1. はじめに

海上保安庁は、2019年4月17日に“海の今を知るために”様々な海洋に関わる情報を集約し、地図上で重ね合わせることができる「海洋状況表示システム」(愛称:海しる)の運用を開始しました。

「海しる」は政府全体で推進している「海洋状況把握 (MDA: Marine Domain Awareness)」の取組の一つとして、政府及び政府関係機関等が保有する海洋情報を集約し、一元的に提供するシステムであります。

2. 海しるの概要

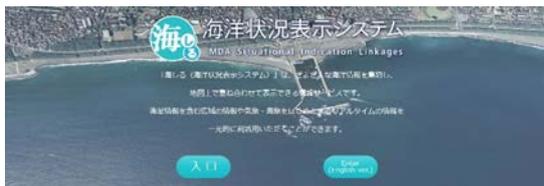
「海しる」は、海洋に関わる情報をリアルタイムに表示することができます。掲載されている情報は、海上保安庁と国内外の関係機関の連携により、「今」の気象衛星ひまわりによる雲の画像、天気図、降水量、海面水温、流れや波の高さ、強震動情報や地理院地図、海底地質図など200項目以上掲載されています。

これらの情報を自由に選択し、透過の機能等を用いて見やすく重ね合わせることができるため、ユーザーが必要な情報を組み合わせて目的に応じた地図を作成することができます。

3. 表示例及び機能の紹介

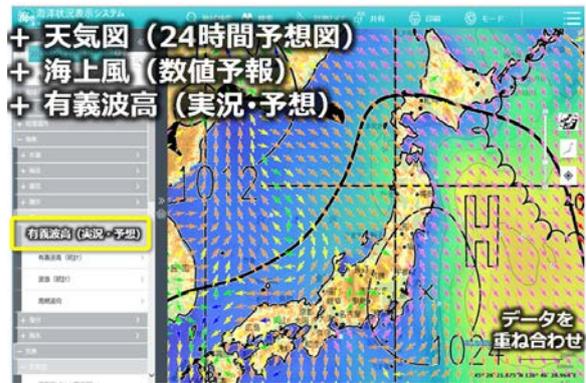
①トップページ

トップページの「入口」をクリックすると「海しる」の日本語版、「Enter」をクリックすると英語版の地図画面を開くことができます。



②天気図、海上風、有義波高の重畳表示例

天気図、海上風、有義波高の情報を重ね合わせ、時間とともに変化する海域の現象を分かりやすく表示することができます。これにより、船舶の航行で気をつけるべき海域の把握や航海計画の策定に役立てることができます。



出典：海洋状況表示システム (<https://www.msil.go.jp/>)
情報提供元：国土地理院、気象庁

③等深線、区画漁業権区域、船舶通航量の重畳表示例

等深線、区画漁業権区域、船舶通航量や気象庁のリアルタイム情報を重ね合わせることで、港湾工事や漁場整備等の作業や観測計画等の策定の際などに活用することができます。



出典：海洋状況表示システム (<https://www.msil.go.jp/>)
情報提供元：国土地理院、気象庁、海上保安庁



出典：海洋状況表示システム (<https://www.msil.go.jp/>)
 情報提供元：国土地理院、気象庁



出典：海洋状況表示システム (<https://www.msil.go.jp/>)
 情報提供元：国土地理院、気象庁、海上保安庁

④地方海上警報、航行警報、水路通報の重畳表示例

地方海上警報、航行警報、水路通報を重ね合わせ、警報内容や通報内容を確認することができます。



出典：海洋状況表示システム (<https://www.msil.go.jp/>)
 情報提供元：国土地理院、気象庁、海上保安庁

⑤機能（計測/メモ、印刷、共有）

地図上で距離や面積の計測や、図形やテキストを入力し、作成した図形等をファイルに保存することができます。また、大圏航路（測地線）に沿った作図・距離計測にも対応しています。

4. まとめ

「海しる」を通じて地球全域を対象とする情報やリアルタイムの情報を広く民間事業者、行政機関、教育・研究機関等に提供することにより、水産業や海運業などの海に関わる産業や再生可能エネルギー、教育、研究など幅広い分野への貢献を目指しています。

まだ利用されたことのない方はぜひ一度「海しる」を見ていただき、様々な情報を重ねあわせてオリジナルの地図を作ってご活用いただければ幸いです。